

## 国立公文書館内閣文庫蔵

### 『新增鷹鶴方』（函号三〇六一三〇七）全文紹介

二本松泰子

#### （一）はじめに

前近代における朝鮮半島では『鷹鶴方』を称する鷹狩りの伝書は以下の三種類が存在する。

- ①李文烈（兆年）著『高麗古本鷹鶴方』（十四世紀成立）
- ②李瑢著『古本鷹鶴方』（十五世紀成立）
- ③李燭著『新增鷹鶴方』（十六世紀成立）

これらのうち、②③については写本が日本においても伝来している（注1）。特に③の『新增鷹鶴方』は八代將軍徳川吉宗の薬草政策の一環として実施された朝鮮薬材調査の対象に同書が取り上げられて以降、主に武家の間で流行し、大量の写本や国字解のテキストが全国的に流布した。特に国字解は板本が多数出版されている（注2）。著者

の李燭は、李氏朝鮮の第十一代国王である中宗（在位：一五〇六～一五四四）から第十三代国王の明王（在位：一五四五～一五六七）の時代に儀礼・祭事や外交などを司る礼曹で正郎を務めた漢方医である。その内容は、養鷹における薬医法に関する説明が大半を占める（注3）。

本稿では、同書の写本のうち国立公文書館内閣文庫蔵『新增鷹鶴方』（函号三〇六一三〇七）の全文を紹介する。当該写本の書誌についてはすでに三保忠夫によって下記の通り報告されている（注4）。

○『新增鷹鶴方』朝鮮 李燭 江戸初期写 内閣文庫所蔵、一冊（306／307）

後表紙（黒）、外題に「（新增）鷹鶴方」（簽（新）、後、左、双）とあり、内題に「新增鷹鶴方」とある。寸法は縦二八・一cm、横

二一・二cm。袋綴。楮紙。墨付四八丁（※稿者注・正しくは二十八丁）。一面九行。漢文体。墨筆の片仮名付訓・辞書引用（宋本系『玉篇』等）、朱筆の書入・イ本校合、朱引などがある。これらの書入は道春の手になる。内容は、後掲の早稲田大学図書館蔵本に同じ。巻頭の印記に「林氏之蔵書」（朱方印）、「浅草文庫」（朱長方印、双）、「江雲涓樹」（朱長方印、双）、「江」「涓」は陰刻、「雲」「樹」は陽刻）、「内閣／文庫」（朱方印）、「日本／政府／図書」（朱方印）があり、本文末尾に「道春子」（朱筆）、印記、「昌平坂／学問所」（墨長方印）、「内閣／文庫」（朱方印）がある。「道春」は林羅山の法号で、その諱は信勝、字は子信、号は羅山という。生歿、天正十一年（一五八三）〜明暦三年（一六五七）正月二三日。江戸時代初期の儒学者で幕府儒官林家の祖となる。朱子学を修め、慶長一〇年家康に仕え、以下、家綱まで四代の將軍の侍講を務めた。寛永七年私塾を建て、これが後の昌平黌の基となる。「江雲涓樹」は彼の蔵書印の一つ。

右の三保の報告によると、同伝本の書入れをしたのは林羅山とされる。彼が朝鮮の鷹書について関心を寄せていたことは、寛永十三年（一六三六）の朝鮮通信使一行の副使である金世濂（二五九三〜一六四六）が日本での見聞を記した『海槎録』の記録から確認できることはすでに指摘されている（注5）。すなわち、羅山が金世濂に朝鮮の養鷹方について質問すると、金世濂はすかさず上掲①の李文烈（兆年）著『高麗古本鷹鵠方』がすると回答したのである。本稿では、このように鷹狩りの伝書でありながら、日朝の学者から関心を寄せられた当該伝本

を取り上げ、その全文を紹介する。それによって、近世期の日本の放鷹文化のみならず、儒学・薬学・獣医学といった学問分野においても朝鮮由来の鷹書が関わっていた実像を解明するための情報を提示したい。

## 【注】

- 1 二本松泰子『鷹書と鷹術流派の系譜』補論「朝鮮放鷹文化享受の一斑―韓国国立中央図書館蔵『古本鷹鵠方』の伝来をめぐって―」（三弥井書店、二〇一八年二月）等。
- 2 藤實久美子「鷹書と出版文化」（『鷹狩りの日本史』所収、福田千鶴・武井弘一編、勉誠出版、二〇二一年二月）等。
- 3 田川孝三『李朝貢納制の研究』第二編「進上考」五「鷹子進上」〔附〕安平大君李瑋著鷹鵠方について（東洋文庫、一九六四年十一月）、三保忠夫『鷹書の研究―宮内庁書陵部蔵本を中心に―（下冊）』第二部第八章「李氏朝鮮の王族、医学者に関わる鷹書」（和泉書院、二〇一八年二月）等。

- 4 注3の三保著書に同じ。
- 5 注3の田川著書に同じ。

## （二）『新增鷹鵠方』の本文

### 【凡例】

- 1 翻刻は国立公文書館内閣文庫蔵『新增鷹鵠方』（函号三〇六一三〇七）によった。







者二焉竊鸛鷹者著(六ウ)於上、古二少隼鵠者頭二於唐、人二張九齡鸛鷹二隱於古二史闕其ノ職スルコトヲ豈ニ昔ノ之多、識ナルノ物亦有ルレ選ノスコト乎カ性ヲ表有リニ義、鶴、行ノ

其為レ物也猛、列俊、逸搏、鮮而食浴レ水、而潔凌レ風而娛一、舉千、里自、在無レ礙、及レ被二羈、繼一心、煩氣、束渴、病生焉庸

夫、不レ察、緊定レ帽、纓掩二、塞鼻、孔不レ與二之水、囚二諸烟、房一、烟、蒸フル處閉トチレ戸ヲ點、是但殺レ之、而已故達、理之士、狼レ之有ニ其節

一調レ之、有ニ其法、察レ病、尋ニ其源、用レ藥、因ニ其性、以(七オ)能全二其、天、一而臂以交レ之、徐以瘦レ之、飢、以放レ之、得レ盡ニ其才

一焉其為レ術、涉ニ於戲、玩ニ雖二君、子之所一、不レ屑然非下盡二物之性、者上有レ不レ能レ解也

取レ鷹七、月上、句為レ上、時内、地者多塞、外者少八、月上、句為レ次、時下、句為二下、時一塞、外之鷹、畢、至矣

網目方一、寸八、分縱八、十、目横五、十、目以二黃、藥、一和二、杼、汁、二染レ之、令(朱)下與(朱)二地、色二相(七ウ)似上、鵠

能遠、視若動、眇、竦、身隨ニ其所一、視、候、レ之焉、實ナリ也(八オ)

(八ウ)：白紙  
調、養雜、説  
星山李燭編

鷹熱、物性喜レ水、雖二雪上、二好レ浴、至レ有下羽、氷不レ能二而飛一者上

庸、人不レ解、乃謂レ惡、水、渴、證之作正、坐ニ於此、二調レ新、鷹者傍置、レ水、盆數、翔張レ口、時、坐、二之盆、上、二則鷹必、喜、飲、如、或、畏、人

見、水、不、飲、用、二大、鳥、羽、清、レ水、二滴、二於鼻、上、一、令、二

浸、々、流、下、一、則鷹必、細、々、吞、之、或、嘜、二水、於頭、類、二亦細、々、吞(九オ)レ之、不レ得レ已、臥、縛者、以レ小、匙、挾、レ水、數、レ數、灌

レ口、母、二狼、多、而、令、一、噎、○、獵、時、渴、熱、挾、レ水、飼、之、日、温、時、數、浴、二川、中、一

鷹不レ傷ニ於飢、一必傷ニ於飽、一況新、鷹畏、逼、氣、結、尤、善、傷、レ食、須

下用ニ萑、單、鶉、鳩、肉、一、小、飼、上、レ之日、久、食、レ食、通用ニ雞、雉、鴈

、鴨、最、忌、二鹿、惡、雄、雞、一、○、終、日、放、獵、則、勞、熱、必、多、又、飼

二熱、血肉、一、則、乘、レ温、凝、結、不、得、二速(九ウ)消、一、況、新、鷹、畏、人

心、熱、常、存、尤、宜、二戒、慎、一、○、頃、二、切、レ肉、浸、一、レ水、是、名、レ水、食、○、水

、食、貴、二細、一、長、忌、レ鹿、大、○、冬、則、間、々、飼、レ温、肉、無、レ妨、○、春、秋

則、不、レ可、レ不、二水、食、一、○、肉、之、陳、乾、處、須、二割、去、一、○、皮、肉、間、不

、潔、膏、屬、細、々、拭、去、○、大、鷹、大、雉、脚、小、鷹、小、雉、脚、適、中、○、矣

○、食、脚、筋、則、成、レ霜、角、須、レ拔、二脚、筋、一、○、内、陋、則、人、尿、浸、飼、○、極、寒、母、二野、飼、一、野、飼、則、食、倍、凍、損、雖、暮、還、レ家、飼、食、○、用(十オ)レ衡、稱、レ肉、飼、レ之、妙、○、作、レ食、洗、手、洗

レ刀、組、臂、緊、定、レ臂、力、令、ニ、鷹、安、坐、二、常、以、二、左手、一、刷、二、其、劍、羽、尾、羽、一、翔、則、拳、レ臂、不、レ動、待、二、其、自、上、二、慎、勿、二、低、昂、揮、一、○、臂、若、失、レ法、鷹、傷、二、脚、力、久、而、不、レ差、非、二、徒、攫、レ、雉、失、一、レ、敏、甚、者、不、レ能、二、平、坐、一、俯、レ、身、顛、倒、矣、○、新、鷹、久、臂、則、足、熱、或、用、二、漬、レ水、布、一、也、或、用、レ瓦、礫、踏、二、之、足、掌、一、○、北、人、雖、巢、鷹、常、臂

レ之非二執レ役(十ウ) 執一レ事末二嘗暫積一故馴擾無レ失○不レ放ノ坐レ狼則懷二凌一雲之志一雖二一、二、日一坐レ狼ノ須下朝自レ雞、鳴昏至レ初、更臂上レ之○性悍ノ者雖レ熱、獵恒臂ノ呼ノ

新、鷹呼、引自レ近漸遠若初 處レ遠則雖レ来必飜去其習不レ美○雖レ老、鷹遠、近ノ間呼、飼在レ野亦馴恃三其熟、老一直飼不レ呼大不、可也○或隔レ山呼レ之或暗、中(十一オ) 呼レ之使、呼声所レ及處皆即尋、来雖レ失ノ易レ得 ○上レ木不レ下者朝、暮飼、時坐二ノ之高、架一呼、下飼レ之不レ下則不レ飼使レ飢ノ甚速 下 為レ度既下甘、飼則可レ變ノ

肌ノ 今人狼レ鷹多言畫、夜勤臂肌則肥レ之ノ無レ妨古、人豈不レ知二此理二而貴レ瘦 乎有レ得レ馴、性者肥而放之其 捉 二、二、手一也ノ果甚健、壯及レ至二三、四、手二則輒生レ怠、心(十一ウ) 一、日因レ暮失レ之明、朝覓レ之則見レ人驚、ノ翔遂冲レ雲、霄瘦者非二徒勤獵一失レ之三、ノ四、日間レ呼亦来乃知勤、臂之功只存二ノ一、日一 隔レ宿則 亡 矣古、人 瘦レ之々意良ノ有レ在也然冬、月稍肥其故何哉 瘦則ノ易レ凍易レ病春秋不レ可レ不レ瘦其故何哉ノ肥則速勞速渴氣不二清一爽一喜二於 凌一風ノ焉○過瘦 則力憊飛低且 遲 不レ及レ趣ノ雉乍遂旋棄止二於林、奔一過肥則心驕(十二オ) 頡、頑揚、々獵不レ盡レ力可レ捉還止上レ木ノ不レ下狼、者於レ是加二、減其食一憊、驕無レ差ノ則善レ矣○瘦則憚レ風堅坐二深、枝一肥則ノ喜レ風聳レ翅盤レ空○肥、瘦既中連、日放、ノ

獵則必瘦此時添レ食不レ然過瘦生レ病ノ肥、瘦既中坐、休累レ休累レ日則必肥此ノ時減レ食不レ然肌堅楊去矣○性馴而ノ瘦者早、朝小飼出獵名日二達、職一性悍者ノ母レ過二二、三、點一不レ飼亦可●瘦者用二乳、汁二(十二ウ) 和飼則易レ肥○温、肉數々夜、飼則易レ肥○無レ論レ肥、瘦性悍内 陋 連用レ布、旭○偷レ食則ノ上肥内陋瘦レ之旭レ之而放レ之○春秋不レ肥無レ害極、寒不レ可レ不レ肥雖二坐、鷹一不レ肥不、可ノ

於訛切ノ

旭 俗稱加 伊五音 或用レ細、羽或用二去レ核木、花一或用二有レ核ノ木、花一或用レ布將レ飼時先以二石 件 物二漬ノレ水按レ掌如二彈、丸大量二宜碎、分裹レ肉飼ノレ之布傷レ鷹有レ核者次之去レ核者平、々(十三オ) 細、羽最善吐、旭之日鷹内、惡不レ喜レ獵ノ鷹之内、陋皆以レ旭治レ之ノ放ノ

新、鷹初須二夜臂一漸、々晝、夜不レ離レ手惟ノ飼食後一○豔、坐食半 消 還臂勿レ 瘦 野肥ノ而調、習性、度稍馴 呼、引而飼之呼引ノ既熟約飼レ水、食中二其肥、瘦一臂而踏レ山ノ再、三呼、飼如レ此一、二、日更 須二詳、察一若ノ歛レ羽凸レ目遠視高嘯數々踏レ 輔 神、氣(十三ウ) 楊、々是忌レ人惡(朱)レ 繼 而思レ 欲 二掣、飛一不レ可二ノ輕放一也若鼻、傍旋、毛姿、然開、堅頂、毛ノ亦起延レ頸 竦 身口作二小、鳥群一數、々握ノレ講見レ物輒動若

起若止投レ之以レ石亦／欲レ追、趣譬如二攫レ金之人徒見レ金不レ見／レ人之類二則是心專二於禽二而欲レ獵之甚／也於レ是用レ治レ内終、日行レ山暮放レ上、手既得レ、捉之慎勿三直、前以致二驚、颺一退、立緩、呼待二其甘、啄一背、立俯レ身徐、行潜、（十才）進先結レ長、纓此レ指處カレニ新、鷹ノ不メレニス、雉剥二出内臟二飼既半飽以二人大、指二内二鷹兩、脚間一用二拇、指及三、四指一微執二兩、脚一則自、然解レ雉矣下レ手不レ熟則多傷二鷹脚一不レ如齊執二足、纓一緩、々拳レ之引二雉、膝、下二徐、々解取之為レ便也○翌、日二、手数、日以、後三、手一、朔之後母レ過二五、手一雖レ老、鷹不レ可二多放疲、勞二〇每、日初、手穿レ内、臟甘、飼小許、不レ然即、時解奪、（十四ウ）則有レ怒、心レ不レ喜獵二、手以、後小飼二腦、隨眼、睛及翅、肉一〇鷹若頻、々視レ天當レレ有二驚属冲一、霄、不レ可レ放也〇鷹若相、攫、急執二兩、鷹、頂一則解〇兄鷹間、々坐休、不レ盡二其力使二レ神、氣常、旺二可也〇瘦、鷹／堅、坐不レ放輒病、

雉、  
 雉自レ遠而來横、過二鷹前一者上、手也雉飛、向二原、野二而原、野無レ林、藪者次也雉直、（十五才）來衝レ前者次也雉鷹後、高飛者下也、雉踰レ嶺者下也雉遠引二於回、陵亂、嶂、之間二者最、下也〇新、鷹初中二上、手二後、亦喜レ獵雖レ老、鷹久、坐、則初放時須レ澤二、上、手二〇浪放レ下、手累出不レ中則鷹怒因、以乍驚鮮レ不二揚、去二〇鷹性巧知レ主知、レ家又知レ好、惡其惡レ雄、雉而好レ雌雉者、憚二雄之強二也每飼二雄、雉一〇雉踰レ山須レ察二、雉向レ頭處二

次察二鷹、側レ翅處二尋レ之〇雉、（十五ウ）踰レ山鷹騰、レ空直上見レ雉則鼓レ翅疾逝、不レ見レ雉則垂レ翅緩下〇不レ見レ雉而放、名曰二發、馬一須二上、地二、  
 地、  
 兩、山高、峻中有レ平、原一瞰俱徹雖レ風、可レ放上、地也背レ高、山臨レ大、野遠、近洞、豁無レ風可レ放次也山回谷、轉翳、蒼蒙、籠前、遮後、蔽不レ知レ抵、落最、下也〇鷹、雖レ才不レ知レ地、形多失レ利焉、（十六才）  
 時、  
 二月以、後十月以、前陽、氣喧、然切無二、當レ手放、使一〇秋冬午、後春則午、前放、使〇大、抵薄、暮喜レ獵、  
 安、  
 鷹呼、吸與レ人同レ節毎レ食速下レ食、倍上、則柔、軟下則堅、硬健拂レ羽拳レ一、足左、右伸レ氣肩、背、羽不レ動肛、門窄、小而冷、一、日二、三、尿々至麓、長末大如レ掌黑、（十六ウ）白相、  
 離、宿則回レ頭挿レ背此平、安之候也、  
 羽、  
 翅、羽謂二之翻二以二其堅、利二故古稱レ劔、羽、鶻三、翻鷹六、翻鶻有レ二、翻者鶻、鶻是、也鷹有レ七、翻者角、鷹是也鶻類有二一、翻者一鷹類亦有二五、翻者一以レ此優、劣鈍、捷者焉第一、羽曰レ高、古第一、二曰二退、強二、自レ第一、三至二第、十一曰レ縱、羅後十、一以、後曰レ步、緩也尾、羽則十、二而居レ中二、（十七才）羽、曰二雄古、奴一居レ兩、邊者曰二築、鋤、兀一亦、有二十、四、羽者一

焉○劔、羽尾、羽沸、水蘸／出則不折○捉、雉則急、揭二膝上二  
令、鷹／尾、羽二母上レ、損○羽折而不レ断、炙レ菁、根劈／レ之乗レ  
熱挾二於折、處二羽直如レ故矣○冬、日或因レ雨、雪或因レ捉レ雉  
羽若沾濕即／坐レ陽、地無レ烟細、火遠照レ之又、烘レ手撫／レ之  
則速乾／

鈴足長六寸五分有奇（十七ウ）

鈴要二小而鳴、一單長塊務レ輕、便懸レ之／過、高則鈴激レ脊、端  
成レ瘡過、低則飛緩○鈴鐵多銅小者碎銅納レ鈴、心外裏／レ黄、  
泥壯、火燒、赤板上轉、冷、則快鳴○望、羽塵汚者劈二冬、瓜肉一  
挾レ之則潔、白／

架／

無レ烟淨、廳寒、温適レ中架地也○春、秋、貴レ陰、地冬、節宜レ  
向レ陽人、物喧、一、鬧處佳／○最忌二糠烟一切、須レ遠之○北、人繫レ  
鷹（十八オ）或於レ穀、石或於二衣、楸一架亦低、畢、無レ異／レ土  
、兀名、坐臥相、狎與レ猫、犬雜、處故／馴、如レ家、畜了無レ野、性  
矣／

逸／

逸、鷹切勿二進前、呼一レ之以レ長、繩繫二活、雉／若活雞一置二相  
、望處二隱レ身弄レ之鷹若来、攫、徐待二甘、啄、一或被レ髮或被レ  
糞從二鷹前一、匍、匍而進以レ竿、繩潛躡二鷹頂、若無二活／雉一  
繫二死雉一過レ樹、枝遙執二繩端、或隆レ之（十八ウ）或墜レ之使  
レ有レ生、氣則鷹亦来攫若草、密、芟去○久逸之鷹、須レ用二機、羅  
一勿用／レ竿、繩●止二、宿木上一、燃二火於一、里許、一漸／進燃

レ之至二四、五、處一既迫二木下一用レ繩、竿／○到、處追、逐使レ不レ  
得レ獵、飢甚然後謀／取亦可○臂二他鷹、徐、々潛進誘以レ餌、則不  
レ驚／

●救、急、方／

鷹、鵠天、地間奇、物故王、公大、人莫レ不（十九オ）レ愛レ之窮  
レ谿、壑施レ羅、網晝、夜調、養其勤／如レ此而凌、霄之氣見レ屈二  
於人、傷レ心迫／レ情外勞内熱疾、病易レ生或至レ掃レ群曾／無レ治、  
術拱レ手待レ斃其亦不、仁、甚矣故／觀二其飲、啄之勢二察二其肥、  
瘦之候一以尋二生レ病之根一將レ本草因レ藥、性遂著為レ方／云（  
十九ウ）

龍、腦、元

龍、腦、半、分、研スル大、黄、五、分、人、參三、  
分、石三、味除テレ龍、腦ヲ合テ為二細、末トス

當、婦、散

當、婦、一、分、大、黄、三、分、右、二、味、咬、  
咀メ用テレ童、便ヲ煎シテ去テ滓ヲ一待テ、  
レ冷ルヲ

皂、角湯

皂、角、半、分、水半、鐘ニ煎メ待テレ

朱、砂、散

半、砂研スリ雄、黄研ル各一、分、  
香研ル半、分、三、分、山、茱、半、右、七、味、各、量、丸、レ、四、分、  
丸ヘ納レテ二猪、肝、ノ内ウチニ以レ藥ヲ包ミ、  
糞ミ用テレ童、便ヲ一煮熱メ去、至ルニ五、  
丸ヲ取テレ藥ヲ丸スルコト如シニ赤、小、豆、大、甘、  
一、每、服、三、丸、漸ク加テ、

水銀散

水、銀、半、分、輕、粉、麝、香、各、一、分、右、  
合セ、研テ不ルヲ息見歟、水、星ヲ為レ度ト、  
有レ風處ニ

煮、肝、元

鷹、鵠如有レ失二其常度一飲、食不レ調或吐（二十ウ）レ食或遲下或  
屎渾、濁或鼻、端激、熱促、／息漲、氣困、倦多睡目、晴不レ厲  
羽、毛不レ快此等病、證皆以二龍、腦、元、黄、連、散、煮、／肝、元一



治レ之龍・腦・元尤妙ノ

鷹・鶴如有二促・息漲・氣鼻・塞二而目有レ涙ノ者以二朱・砂・散一吹レ之亦用二龍・腦・元二此藥ノ尤宜三於鶴ニ若無二朱・砂・散一以レ皂・角・湯代ノレ之鷹・鶴如或為レ物所レ觸目・睛迷・眩而ノ勢急者用二當・歸・散一(二十一才)

渴・證有レ二一喘・息鹿・急二鼻・塞咳・嗽ノ北・人謂二之鼻・項・匿一久則黃・水自レ口出ノ若青・水出則立死○若喘急大・黃細ノ末裹レ肉飼レ之或煮レ水灌レ之又黃・藥・實ノ槌・碎裹・飼又野・人乾・水浸レ肉飼レ之○ノ若鼻・塞萬・病・元細・末吹レ鼻・孔又令レ人ノ吮二出鼻中濃・汁一々出即止過・吮則傷ノ鼻・項・匿針刺二鼻・傍一旋・毛洞・貫・灸三ノ七或只刺レ神・庭納二艾・氣二(二十一ウ)

不レ食レ肉喜レ飲レ水日漸消瘦而尿潔者ノ北・人謂二之内・項・匿一此證最危ノ

脚・趾浮・腫者謂二足・項・匿一針・破後胡・王ノ師・根ノ納二針穴一令二爛・出二妙又ノ火・鐵・針之納二艾・氣二然百無二差一ノ晴有下被レ膜淚・流不レ止回レ頭拭上レ肩者二謂二目・項・匿一山・椒・津ノ和二初・男乳・汁一滴二ノ眼・中一神・妙又熊・膽和レ乳滴レ之又雉・膽ノ滴レ之(二十二才)

目昧レ物致レ傷陳・榛・子細・末和レ乳滴レ之ノ觸・傷之目久則自愈滴レ乳亦佳ノ

内冷外・熱所レ屎成レ塊白反レ青・綠者用二甘・草・湯一和飼無レ甘・草則温・水ノ

有二段・傷處二輕・粉松・脂細・末塗レ之成レ痂ノ去レ痂塗レ童・便令レ不レ成レ痂ノ

屎有レ長・蟲煎二狼・牙草・根一灌・下又細二末ノ狼・牙・根一裹・飼二・三・片ノ

蟲・食煮二苦・參湯一淨洗(二十二ウ)

有レ虱・子浴二草・楸・湯一又梨・萹・根栢・部・根ノ二・味為レ末加二輕・粉・黃・連二細研裏飼為レ妙ノ

有三下・熱之候二或屎・陋而短月・經・水浸一ノ飼又熊・膽數・粒裹・飼清・心・元小・豆大ノ裹・飼ノ

用レ藥多・少隨二鷹・鶴之大・小一ノ

兄有二不・安之候二忌二鴨白・鷄黃・狗・肉一ノ

鷹・鶴之病與レ人無レ異兄證宜二類推二要(二十三才)在二斟・酌用レ藥ノ

經・驗・方ノ

有二畜レ鴟・鶴者二一・日鼻・息塞・急目有レ露ノ涙人皆謂二頂・匿一欲レ炙レ之畜者謂鷹・鶴ノ不レ可下以二病人一治上レ之試以二朱・砂・散一吹レ之ノ用二煮・肝・元一果有レ神・效二云ノ

有三畜レ白・黃・鷹者一隨二鷹疫・方一與レ十無二一ノ活一而白・黃・鷹亦有二吐レ食激・熱之候二用二龍・腦・元一得レ存云(二十三ウ)

有レ隨二鷹疫一而以レ黃・連・散得レ免二云ノ

有二畜レ鷹者二病・勢方地人言放令レ投レ雉ノ飽飼二温・血・肉一

5 捉

則差云畜者謂鷹病皆由レ熱而生勞レ身放、獵豈不レ加レ熱況飼ニ  
温、血、肉一豈能速下乎乃坐ニ之水、盆、中、石、塊、上一令レ水  
氣常潤一捕雀及鼠一去二毛、及臟一按ニ之掌、中一血、肉通亦適レ  
中飼レ之、果得レ効云、  
柳、木、上虫家状如ニ鳥、卵一有ニ班、文者一其、(二十四オ) 中有レ  
虫取レ虫擣レ水和レ食飼レ之神、効云、

養、鷹鑑、戒、星、山、李、爛、撰、

余、謫レ北、方聞ニ老、師之言ニ曰新、鷹初、捉姑勿レ懸レ鈴坐ニ  
無レ烟暗、廳ニ一、二、日、後屏レ氣潛入繫ニ肉於架ニ慎勿ニ仰レ面、  
視レ之旋即退避待ニ其自食、一如レ是ニ、三、日漸以レ手執レ  
肉飼レ之如レ是ニ、三、日漸、夕晨、昏臂レ之如レ是ニ、三、日  
漸、(二十四ウ) 漸通、夜臂レ之如レ是ニ、三、日漸、夕晝、夜  
不レ殛レ手四、十、日後放レ之百無ニ一、病一或云必待レ三、朔後放  
之尤妙此、為レ可レ鑑、○余見ニ北、方諸、郡ニ多、捉ニ良、鷹ニ連レ  
架溢レ廳、未レ經ニ一、朔一掃レ地無レ遺、惟而問レ之則皆反ニ右  
法一初、捉之日、即令レ臂レ之無レ問レ晝、夜驚、心未レ定飢、渴先  
逼、勞、悸生レ病轉、相薰染此可、レ為レ戒、○庸、師言初、捉之日通夜  
臂、(二十五オ) 之則無レ病謬、妄無、理莫、甚ニ於此、極、可レ  
戒也、○余初学レ鷹時恐、々、然惟、去、之憂日、夜勤臂初放、捉レ  
之既、放之後不、敢、浪、放、安、坐、休、養、輒、生、レ、瘦、病、竟、至、レ、不、救

6 雅ハ離字乎

余益惑焉詢ニ於老、師一言新、鷹放、捉之日、前肌必下ニ一、  
倍、一須、三甘飼ニ善、肉一量、宜ニ半飽一勿レ拘ニ晝、夜又須、三遂  
レ日放、獵一母レ、令、ニ、驚、心、鬱、結、一但勿ニ多放、勞、熱、一庶免  
レ生レ病但、如レ是、(二十五ウ) 五、六、日、則肌堅不レ馴於ニ此  
之時、二約、飼ニ水、食一勿レ、令、レ、生、レ、驕、如、遇、レ、風、雨、不、レ、得、ニ、放、  
獵、一則、須、二飽、○令、レ、無、二欲、心、一、如、レ、是、半、月、則、無、二他、病  
一亦、可、レ、鑑、○余、得、ニ、性、悍、者、一、惟、務、瘦、レ、之、累、日、不、レ、放、輒、生、レ、躁、  
渴、老、師、言、悍、鷹、雖、レ、勿、ニ、多、飼、令、レ、肥、瘦、鷹、必、須、二略、々、頻  
飼、一庶免、レ、生、レ、病、云、○懸、レ、鈴、時、令、ニ、人、臂、以、懸、レ、之、須、レ、勿、ニ  
臥、縛、一其、翔、不、レ、過、二五、六、度、一則、不、レ、驚、動、(二十六オ)  
聞、見、常、談、

鷹上則圓、大下則尖、殺如レ菁、根者、良、柱圓、厚、端、長者  
壽、○、猪、柱、薄、且、小、者、短、壽、不、才、○、小、者、足、粗、大、脛、長、者、良、大、者  
足、清、勁、脛、短、者、佳、皆、貴、二瘦、硬、無、レ、肉、鱗、甲、龜、而、怒、起、者、良、最  
忌、二軟、細、而、伏、一、○、或、云、小、者、脛、長、則、無、レ、力、大、者、脛、短、則、手、鈍、  
○、指、如、レ、十、字、爪、短、而、直、者、佳、指、同、(二十六ウ) 川、字、二、爪、曲、如、レ、鉤、  
者、下、也、○、劔、翻、幹、勁、葉、薄、尖、如、二、銛、刀、一、末、端、直、挺、不、二、內、  
曲、一者、快、○、方、云、翻、短、飛、急、然、翻、短、則、無、二、遠、飛、之、才、一、○、大、者、翻、端  
尖、銳、小、者、稍、廣、者、佳、○、頰、欲、レ、圓、短、項、欲、二、秀、長、一、○  
目、向、前、而、深、者、良、若、向、レ、腦、而、亞、者、性、悍、○、上、睫、廣、旋、毛、茂、者、

7 飼テ  
8 凸

壽○側レ身而坐横蹋レ架者良○起ニ架、上ニ翔レ架、上回レ架、上<sub>9</sub>  
 ○而直、墜懸、翔<sub>10</sub>○(二十七才)亦佳右皆高飛架、下起而架、  
 下翔ノ者不レ佳○鷹肌惟於二曉、頭一定ニ其、肥、ノ瘦ニ○黄、水赤、  
 水為レ上淡、黄淡、赤ノ為レ次白、水為レ下或云淡、黄才云又ノ有ニ  
 黒、水者一亦一、種也○栢、子、點絲、ノ點蛭、點羅、親、點土、卵  
 、點照、布、紋半、ノ照、布、紋土、卵、紋等名、號頗多而駿、ノ鴛  
 不レ係ニ於是ニ云或云蛭、點壽絲、點ノ不、才亦非レ的、論也○海  
 、青與レ鴟、鶻(二十七ウ)形、躰略同而鴟、鶻則尾短與レ劔、翻  
 ノ齋海、青則尾稍長如レ鷹此其異也ノ且皆栢、子、點雖レ陳不レ改  
 但陳則點ノ差、小○海、青有二甚小者二鶻、鶻亦有二ノ至大者一○  
 北、人稱ニ海、青純、白者一曰ニ白、松、鶻一半、白者曰ニ蘆、花松  
 、鶻一黄、紫ノ者曰ニ黄、松、鶻二或云ニ灰、松、鶻一青、黒者ノ曰ニ  
 青、松、鶻二或云ニ玉、松、鶻一○海、青雖ニノ大、風逆、風一了無レ  
 掀、箴直、逝、尤疾搏(二十八才)レ鳥不レ中則張レ翅緩、浮雖  
 二甚遠二聞レ呼ノ即來此其奇也調、養肥、瘦與鷹一、ノ同但積、久始  
 調不レ得レ欲、速也鶻、鶻ノ貴、瘦レ之肥則徑去不レ顧○大  
 、抵海、ノ青鶻、鶻皆利ニ平、原大、澤ニ不レ宜ニ灌、茅ノ叢、薄ニ○  
 鷹鶻臍下細、羽無レ點者不、ノ才○鷹、鶻身如レ圓、木左、右前、後  
 視ノレ之如レ一者佳ノ(朱)道春子(二十八ウ)